

令和7年度人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業総括

1. 事業の名称

動物園から始まる「イキイキ」ボランティア活動推進プロジェクト

2. 事業の目的

人生100年時代を迎え、地域で生きがいにつながる活動に参加したいというモチベーションを持ったシニア世代が多く存在しています。このシニア世代の日常をより健康で活力のあるものにする方法として、「人との繋がり」が重要な役割を果たすことが知られています。しかし、地方都市では若者の流出が続いており、また、核家族化が進展するなど、このようなシニア世代が繋がりを持ちにくい状況が進捗していることもあります。

周南市徳山動物園は、周南地域最大の観光交流施設であり、幅広い世代の来園者があります。また、動物や、植物、環境や蒸気機関車（SL）など多様な要素の魅力を持った都市型の総合公園です。現在、徳山動物園では、約80名のボランティアが、植栽管理、環境学習、おもてなしサービスの3つの班に分かれて活動しています。これに地域貢献やSLの保存活動など活動の範囲をさらに拡大していくことで、より多くの思いを持ったボランティアの受け皿を用意するものです。

シニア世代から子どもたちまでの、三世代がともに取り組む場を作ることによって、やりがいのある地域活動の促進を図り、地域の大交流点としての徳山動物園の位置づけを確立し、多世代が活躍する活気ある地域づくりに貢献していきます。

3. 実施方法

(1) ボランティア募集の告知

- ・地域情報誌やポスターなどによる周知
- ・SNS、マスコミなどによる周知

(2) ボランティア説明会の実施と登録

(3) ボランティア研修の準備調整とその実施

- ・おもてなしボランティア

来園者に提供するプログラムのマニュアル化と小道具の準備と活用方法の習得
プログラムの実施と改善点をミーティングで共有し想いを反映する機会を作る

- ・インタープリテーションボランティア

新規の参加者を中心に環境学習の方法や体験的な学習法の理解につながる研修

- ・緑化ボランティア

専門家による植物栽培の基礎と実際の作業のノウハウの指導と体験を通じた習得

- ・SL見守りボランティア（仮称）

先進地の経験者による維持作業内容の指導とSLの特徴の説明

安全作業の注意点の徹底、先進地の作業訪問

(4) 各グループによる活動

- ・おもてなし・緑化は毎週
- ・インタープリター 年間40回
- ・SL 年の後半に毎月1回

(5) 活動内容の周知や情報発信

- ・ボランティアメンバーによるSNS発信にかかるルール作り
- ・地元メディアと連携し活動情報の発信やイベント参加者の募集を実施
- ・動物園公式SNSでの発信、活動の様子を園内で紹介
- ・ボランティアの活動の様子と周南市の情報を合わせたリーフレットの作成と発行
- ・活動を広めるための活動体験会の実施

(6) ボランティアメンバー同士の繋がり強化

- ・担当スタッフからのSNSを使ったプッシュ型情報提供
- ・定例的なコミュニケーションの場の提供

(7) ボランティアコーディネーション担当職員の配置と一部作業委託

→一部作業委託は、当市のDX化が進み単市で行えるようになったため、ボランティア活動コーディネーター事業委託に変更した。

4. 事業内容及び実施状況

(1) ボランティア募集の告知

- ・地域情報誌やポスターなどによる周知
→令和8年度募集に向けて準備中
- ・SNS、マスコミなどによる周知
→令和7年度募集の際にSNSによる周知を実施、新聞のコラムで周知を行う

(2) ボランティア説明会の実施と登録

→予定通り実施

(3) ボランティア研修の準備調整とその実施

- ・おもてなしボランティア
来園者に提供するプログラムのマニュアル化と小道具の準備と活用方法の習得
プログラムの実施と改善点をミーティングで共有し想いを反映する機会を作る
→「標本のタッチング会」を立ち上げる。ミーティングを行い、活用方法の修正や必要物品を追加。
- ・インタープリテーションボランティア
新規の参加者を中心に環境学習の方法や体験的な学習法の理解につながる研修
→環境学習に精通している職員がボランティア全体に研修を実施。また外部講師によるより専門的な研修も実施。(2月9日の積雪のため3月に順延)
- ・緑化ボランティア
専門家による植物栽培の基礎と実際の作業のノウハウの指導と体験を通じた習得
→地域の専門家を招聘し、座学と花壇や畑での実地研修を実施。
- ・SL見守りボランティア(仮称)
先進地の経験者による維持作業内容の指導とSLの特徴の説明
安全作業の注意点の徹底、先進地の作業訪問
→活動参加の意向がある地元住民、及び活動をコーディネーションする職員が具体的な作業内容や活動の進め方について先進地の経験者による指導を受けた。
また、福岡県北九州市の九州鉄道記念館、島根県津和野町の津和野駅にそれぞれ静態保存されているSLの保存活動や活動実施状況について直接訪問して説明をしていただいた。

(4) 各グループによる活動

- ・おもてなし・緑化は毎週
- ・インタープリター 年間40回

→順調に行うことができ、3月末までに年間で80回程度の活動を行える予定

・SL 年の後半に毎月1回

→エントランス工事が遅れ、現時点で工事中であるため、活動の定期化はできず、地元住民への説明、メンバーの募集、ボランティアグループ立ち上げ、活動の体験会を実施するまでとなった。

(5) 活動内容の周知や情報発信

・ボランティアメンバーによるSNS発信にかかるルール作り

→ルール作りは予定通り実施した。また実際のボランティアによる投稿もSNS投稿説明会の際にボランティアが行った。しかし、興味を示したのが4名ほどであった。

・地元メディアと連携し活動情報の発信やイベント参加者の募集を実施

→地元ケーブルテレビ内で情報発信及びイベント参加者を募集し予定通り実施した

・動物園公式SNSでの発信、活動の様子を園内で紹介

→公式SNSでの発信は予定通り実施した。活動の様子は安全に設置できる場合は園内の花壇や畑の前に手描きボードを設置し、活動を周知した。

・ボランティアの活動の様子と周南市の情報を合わせたリーフレットの作成と発行

→紙面の関係上、周南市の情報を記載することはできなかったがリーフレットの作成と発行は予定通り実施した

・活動を広めるための活動体験会の実施

→「うんちの旅」と題して3種類のボランティアの活動を体験・紹介するイベントを2回実施した

(6) ボランティアメンバー同士の繋がり強化

・担当スタッフからのSNSを使ったプッシュ型情報提供

→主にSNS「X」の公式アカウントでボランティアについて発信することで、ボランティアが各々の活動の様子がわかるように情報提供を行った

・定例的なコミュニケーションの場の提供

→各グループで定期的にミーティングを行うなどしてコミュニケーションの場を提供した

(7) ボランティアコーディネーション担当職員の配置と一部作業委託

→ボランティアコーディネーション担当職員の配置は予定通り実施

→一部作業の委託は、当市のDX化が進み、業務委託で行う予定だったメール配信に伴う事務作業が当市単体で行えるようになったため予定を変更し実施していない。その代わりボランティア活動コーディネーションを委託し、ボランティアをコーディネートする職員のコーディネートのスキルアップ及びボランティアの技術向上を目指す事業を委託することに変更した。

(8) 活動報告書の作成

→予定通り実施

5. 事業の効果

本事業は「動物園という場を通じて多世代が活躍する活気ある地域づくりに貢献すること」を目的とし計画を遂行した。

まず、今年度の新規ボランティアの登録者について報告する。本年度の4月～5月のボランティア募集では33名が登録前の説明会に参加した。そのうち29名が本登録した。新規ボランティア登録者の最高齢は78歳、最年少は20歳、平均は51.4歳であった。このように当園のボランティアはボランティアのなかでも多世代が交流し、活気ある地域づくり貢献できるポテンシャルを有しており、さらに多世代がイキイキと活躍し交流が広げられるように以下の取り組みを行った。

本事業では多くの研修を企画・実施することで、ボランティアの熱意や意欲の向上、スキルアップを目指した。その結果、特に60～70代のシニアの在籍が多い「緑化ボランティア」では「今年度の活動は充実している」という声が多く挙がり、日々の活動をより意欲的にイキイキと取り組んでいたと感じている。

次にイベントを行うことで、親子の参加者との3世代交流が図れるようにした。「おもてなしボランティア」では、新たにポニーの頭骨やダチョウの卵などの標本に触れる「標本のタッチング会」というイベントを立ち上げた。多い回だと100人を超える参加者も集まり、イベントを通して子供・子育て世代・40～60代のボランティアという世代間交流が行われた。「おもてなしボランティア」からも「これが活動の醍醐味だ」という声が出た。

また、特別なイベントとして、ボランティア活動の体験会を2回開催した。マスコミにも周知し、特集が組まれるなど一定の反響を得た。また体験者は親子が多く、3世代がともに取り組める場を創出でき、ボランティア、参加者ともに非常に楽しんでいた。

SL見守りボランティア（仮称）」はリニューアル工事の遅れの影響で活動を軌道に乗せることはできなかったが、先進地の経験者を招聘し、地元の地域団体や、地元住民、活動をコーディネートする職員向けに活動の体験説明会を実施した。また、先進地の事例から、作業上の安全配慮や、具体的な活動組織作りについて定めることができ、地域住民を対象とした募集を行っており、来年度以降も随時募集を続けていく。

以上のことから本事業の目的は一定の水準で達成できたと評価している。

6. その他（感想等）

- ・ 本事業によってコーディネーター側の職員も「多世代が活躍する活気ある地域づくりに貢献」という新しい視点でのボランティア活動の支援を行えた。
- ・ 例年であれば資金面で見送っていた研修も行うことができ、ボランティアも「イキイキ」と活動ができた。
- ・ 今後もボランティア活動を通してボランティア自身また地域全体が賑わえるよう本事業で得たことを生かしていきたい。

ボランティア活動の体験会



園内緑化ボランティアの研修会

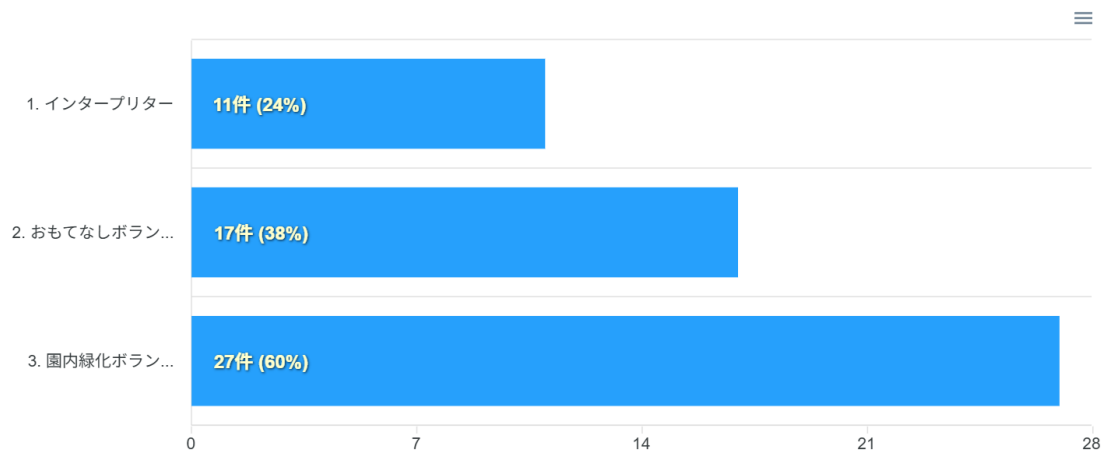


令和7年度はな満開エコボランティア達成感アンケートの集計結果

令和7年度末に登録している全ボランティアを対象にアンケートを行った。回答はオンライン、アンケート用紙で受け付けた。全88名のうち45名から回答を得られた。

①登録しているボランティア種をお答えください。

登録しているボランティア種をお答えください。



②今年度の達成感を%でお答えください。

(登録しているボランティア種ごとに回答をお願いします。)

インタープリター 68.7% (有効回答数 10 人)

おもてなしボランティア 47.9% (有効回答数 17 人)

園内緑化ボランティア 60.9% (有効回答数 27 人)

③理由をお答えください(本事業に関連するコメントを抜粋)

- ・楽しく参加できて良かったです。年明けからなかなか参加できていないので残念です。米沢園芸の方の研修もとても勉強になりました。

- ・花壇のだけでなく、植物の育て方の講習会もあり ためになりました

- ・とても充実した日々を過ごせました

米沢先生の講習が楽しかった 花は好きだけど知識が無かったので習えて良かったし、面白かった。また開催していただきたいです。日々の活動では失敗もあったが良い経験が積みました。来年度も今から楽しみです。

- ・おもてなしボランティア：来園者がお目当ての動物を探していて、案内した後に見て喜んで帰られた場面。

緑化ボランティア：花の植え付け作業をしている時に、子供や大人も口を揃えて「いつも綺麗な動物園をありがとう。」と言ってくれた場面。